講義科目　:行動の理論 担　　当　:東福寺　一郎	単位数　　:2 学習形態　:選択科目

講義の内容・方法および到達目標

心理学では「経験によって生じる比較的永続的な行動の変容」のことを学習と定義します。学習についての研究は歴史的に長く、現在でも主要な領域の１つです。その学習について、下記テキストに基づき、１回もしくは２回の講義で１章を目途に進めていきます。専門用語が多く、難しく感じるかもしれませんが、パワーポイントも使いながら、できるだけわかりやすく講じます。

自分自身を含め、人間の日常的な行動を学習心理学の知見から考察できるようになることを到達目標とします。

授業計画

第１回　ガイダンス。本講義で扱う基本的な内容
第２回　「学習」について学ぶ（第１章）
第３回　馴化と鋭敏化（第２章）
第４回　古典的条件づけ１：基本的特徴（第３章）
第５回　古典的条件づけ２：信号機能（第４章）
第６回　後天的条件づけ３：学習の内容と発現システム（第５章）
第７回　「動物の認知」（DVD）視聴と小テスト
第８回　オペラント条件づけ１：基礎（第６章、オペラント条件づけの基礎）
第９回　オペラント条件づけ１：基礎（第６章、オペラント行動の獲得）
第10回　オペラント条件づけ２：強化・消去と罰・強化スケジュール（第７章、強化・消去と罰）
第11回　オペラント条件づけ２：強化・消去と罰・強化スケジュール（第７章、強化スケジュール）
第12回　オペラント条件づけ３：刺激性制御―弁別と般化（第８章、弁別）
第13回　オペラント条件づけ３：刺激性制御―弁別と般化（第８章、刺激般化）
第14回　概念学習・観察学習・問題解決（第９章）
第15回　記憶と学習（第10章）

教材・テキスト・参考文献等

テキスト：実森正子・中島定彦共著　学習の心理第２版　サイエンス社
　　　　　定価　2,300円＋税　ISBN　978－4－7819－1243－1

参考文献はテキストに掲載されているものの他、適宜紹介します。

成績評価方法

毎回出席を取り、6回以上欠席した場合には無資格とします。

試験は筆記試験を予定していますが、新型コロナウィルスの状況によりレポート課題へ変える可能性があります。評価割合は小テスト20%、最終テスト80%とします。

その他

比較的専門性が高いので、できれば２年次での履修を勧めます。また、教科書の最終章までは取り上げることができません。取り上げられなかった章については、講義で触れたことを参考にしながら、各自読み進めてください。